

平成29度 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、自ら行動する生徒の育成～						
重点目標		(1)進んで学習に励む生徒の育成 (2)授業や行事、部活動に活力を持って取り組む生徒の育成 (3)自尊感情と他者への思いやりの心を持つ生徒の育成 (4)規範意識や基本的生活習慣が身についた生徒の育成						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。 ・小中連携を進める。	・全教員が指導案を作成し公開授業を行う。 ・スモールステップの学習に努め、復習演習の時間を確保する。 ・全国学力学習状況調査の分析結果を各小学校に提供する。 ・ICT活用の授業作りに努める。 ・小テストやドリル学習などを繰り返し行い、基礎学力の定着に努めて、よりわかりやすい授業を展開する。 ・シラバスを活用し、適切に評価を行う。	・生徒アンケートにおいて「授業は、わかりやすく楽しい」と回答した割合が80%以上を目指す。また、「先生は事前に評価の仕方を説明し、学習の成果を適切に評価している」と回答した割合が85%以上になる。 ・わかりやすい工夫した授業を行う。	B	・「わかりやすく教え方を工夫している」と受け止める生徒は89.4%と高率であるが、反面「授業はわかりやすく楽しい」とした回答は目標値に10.4P届いていない。(69.6%)。 ・「評価の仕方を説明し、学習の効果を適切に評価している」との回答は目標値を4.2P上回っておりシラバスを用いた効果が認められる。 ・ICTを用いた授業実践が学校全体に広がりつつある。	・今後もシラバスを活用し、事前に評価の方法を説明し、適切に評価を行う。ホームページに公開し、家庭で確認できるようにする。 ・導入で本時の目標を示し、授業の最後で振り返りを行う。 ・机間指導を効果的に行い、質問しやすい環境をつくる。 ・週末課題を事前に知らせ、家庭学習の定着と提出の徹底をはかる。 ・学習優先の日が役立ったと生徒も教師も実感できるようにする。 ・「家庭学習の手引き」を使用して家庭学習の推進を行う。	・シラバスの活用をもっと家庭に投げかけるべきではないか。 ・「授業はわかりやすく教え方を工夫している」の評価は高いのに、「授業はわかりやすく楽しい」としている生徒の割合が低いのは不思議である。教師は努力はしているが、授業は理解しにくいものになっているのでは。 ・授業スタイル(めあて→個→グループ→説明(発表)→振り返り)をどの教科も徹底していくと良いのでは。
	思考力・判断力・表現力の育成	・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。 ・生徒、教職員ともに表現力を伸ばす。	・4人班を基本とし、ホワイトボードを活用するなどした、グループ討議や発表場面を取り入れる。 ・ICTを活用した授業を行う。 ・各教科で携帯タブレットや電子黒板の活用を増やす。 ・聴き取る能力、伝え話す能力(ことばの力)の向上をめざす。 ・授業の終わりに学びをまとめ、振り返りを行う。 ・図書館利用を促す取り組みを増やす。 ・学校評価に関する項目を加える。	・聞き手が分かりやすい発表ができる。 ・評価項目「学校は様々な場面(授業・行事・委員会活動など)で表現力を高める取り組みを行っている」における評価を85%以上に維持する。	A	・終礼時の1分間スピーチをこれからも継続していく。行事などと連携してテーマ設定を変えていく。 ・生徒会の活動の場を増やす必要がある。	・1分間スピーチの継続および、少人数のグループワーク、ディベートなどの活動を授業や行事で積極的に取り入れていく。 ・生徒会や委員会活動のスピーチ時に、要点をまとめて相手に伝わる話ができるように指導する。	・自分の頭の中での考えを外に向けて表現する力が今後益々求められる。 ・現在の取り組みを継続していつてもらいたい。
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・シラバスを有効活用する。 ・宿題など通して、自主学習をする習慣を身につけさせる。 ・携帯電話やスマートフォンなどを所持することのメリットやデメリット、家庭内でのルールづくりの重要性などを、小中の連携により、共通認識を図り、家庭に促す。 ・目標やねらいを明確にし、振り返りを取り入れた授業力向上に努める。 ・週末課題を設定し、未提出者には学習優先の日を有効に活用する。	・生徒アンケートにおいて「自分は授業で積極的に発表しようとしている」と回答した割合が65%以上になる。 ・携帯電話やスマートフォンの家庭内のルールについての項目を85%以上にする。	B	・「積極的に発表しようとしている」という項目では、回答の平均が57.3%と、さらに下がっているため改善が必要である。 ・携帯電話、スマートフォンに関して「約束を決めている」と回答したのは85%と高いので、引き続きサイバー犯罪講演会などでの啓発を今後も継続する。	・シラバスを配布する際に、計画立てた勉強の仕方や方法について説明をする。また、授業の中で振り返りの時間をとるように努め、家庭学習につなげる。 ・「本時の目標」を明確にし、生徒が「何を学び、何を身につけるか」を理解させる。 ・学習優先の日を活用し、学力向上の成果が見られるようにする。 ・保護者説明会やサイバー犯罪講演会などを通じて、携帯電話の使い方やルールを理解させ、問題が生じた場合は被害が拡大しないようにさせる。また、所持している家庭には家庭内でのルールづくりなどへの協力をより強く求めていく。 ・発表の機会を増やす工夫をする。 ・提出物の提出状況や日々の学習の様子を教師間で細やかに共有しつつ、保護者に伝わるよう発信しながら、声かけを行っていく。	・本時の目標を明確にすべき。「目標」が本当に目標になっているか。この時間で何を学習するのか、何ができるようになればいいのかを具体的に提示する。

豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	・生徒と教師間の信頼関係の構築 ・学級経営の充実。 ・基本的生活習慣の確立。 ・規範意識の向上を目指した指導を行う。	・職員朝礼時に職員間で情報交換を行い、その日の生徒指導に生かす。 ・小学校に出向き、英語の出前授業を行う。 ・Q-Uを実施し、具体的対応を考え、学級経営に生かす。 ・道徳ローテーション授業の実施 ・総合的な学習の時間にきょうだい学級での取り組みを取り入れる。 ・きょうだい学級での取り組みでは、合唱練習や生徒会活動を通して、上級生が下級生の見本となり、縦のつながりを実感できる取り組みを行う。 ・1分間スピーチを取り入れ、人前で発表できる機会を設ける。 ・小中連携の研修などで、児童生徒の情報について共有する。 ・教育相談週間をもうけ、生徒の実態把握を行う。	・生徒アンケートにおいて「自分に自信を持って行動できることがある。他の人を思いやる気持ちになれる」について、85%を上回る。 ・保護者の回答で「子どもが自信をもって生活している。他の人を思いやることができる」について85%以上にする。	B	・全体、学年、クラスで個々の言動が正しくできているか、呼びかけを継続して行うことができた。教育相談週間で生徒の実態を把握し、対応できた。 ・相談を受けた生徒には呼びかけを継続して行う。 ・「自分に自信をもって行動できる」の問いに対して生徒は87.3%が、また「子どもが自信をもって行動している」の問いに対して保護者は83.0%となり、好結果となった。 ・Q-U調査を行い、活用についての研修を行い調査結果を分析することができた。Q-Uの分析結果を2学期の学級経営、学年経営に生かすことができた。	・きょうだい学級でディベートという新しい取り組みを実践した。今後はそれぞれの役割で生徒が活躍し、認め合うことができる内容を考えていく。 ・1分間スピーチを各学年、より一層工夫して行う。 ・Q-Uの活用法についての職員研修を引き続き行う。	・学校では一人ひとりの生徒に対して「いいところを見つけて褒める指導」で自尊感情を伸ばしてもらいたい。一方家庭では「お子さんに家庭で役立つ仕事を与えている」や「私は家で役立つ仕事(役割)をしている」が低い結果になっている。子どもに自分の役割を持たせ、子どもも役割をしっかりと認識できるようにしていくことで自己有用感が育まれる。勉強も大事だが役割をどう入れ込むのかを保護者も考えなければならないのでは。
	生徒指導	・いじめ問題への対応力の向上に取り組む。	・毎学期、教育相談週間をもうけ、生徒の声に耳を傾ける。 ・充実感のある行事を行う。 ・Q-Uのアンケートの結果を活用し、学級運営に生かす。 ・ニコちゃんマークアンケート、学校生活アンケート、いじめ・体罰調査アンケートを行い、早期に実態把握を行う。	・「自分を大切にすることや、他の人への思いやり、いじめを許さないことについて教えてもらっている」という生徒の割合を85%以上にする。 ・「子どもは楽しく学校に行っている」という保護者の割合を85%以上にする。	B	生徒アンケートに関して、生徒アンケートは全体で94.0%となり目標を上回った。また、保護者アンケートにおいて、全体では89.7%となり、目標を上回った。この結果より、一定の指導の効果を得ることができた。	・保護者アンケートの数値上昇のために、いじめに関するPTA主体の講演会を実施し、話し合いの場が持てるようにする。 ・学年会でQ-Uの結果分析や対応方法の検討を行い、研修会の機会を設けて、学年・学級経営に活かす。その際、要支援群に入っている生徒については職員会議などを通し、学校全体に情報の周知を図る。	・適切に評価されている。いじめは早期発見、未然防止に尽きる。
	体力の向上	・自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。 ・保健管理や啓発による丈夫な体づくりを行う。 ・校内の事故防止に努める。 ・食に関する指導に取り組む。	・ほけんだよりを活用し、健康の保持増進に関心を持たせる。 ・委員会活動等を活用し規則正しい生活についての啓発を行う。 ・保健体育の授業で毎時間補強運動、柔軟を実施し、体力の向上と怪我防止につなげる。 ・スポーツテスト、タイムトライアルの成績上位者の掲示を行い、意欲向上につなげる。 ・学校保健委員会を開催し、PTAと連携した体力向上効果を目指す。	・スポーツテストの伊丹市の目標指数を昨年より更に上回するために体育の授業や課題活動を計画的に進める。 ・保護者の「早寝早起き、規則正しい生活を心がけ体力向上に努めている」の評価を90%以上にする。 ・保護者におけるほけんだよりの認識を90%以上に維持する。 ・生徒の「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がけ体力向上を図る」の割合を85%以上にする。	B	・スポーツテスト、タイムトライアルの成績上位者を掲示することで、生徒の意欲を高めることができた。 ・保護者の「早寝・早起き、規則正しい生活を心がけている」の割合が85%と90%に少し届かなかった。 ・保健だよりの認識は90%以上を維持できた。 ・生徒の「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がけている」の割合が85%に届いた。	・保健だより、学年だよりを配布した際に担任が健康保持について呼びかける。 ・学年集会や、全校集会などで健康の保持増進を意識づける。 ・月ごとの委員会活動等を活用し規則正しい生活についての啓発を行う。 ・担任が個々への呼びかけを意識して行うことで、「早寝早起き朝ご飯」の意識付けを行う。	・体育の授業でもウオーミングアップで継続して補強運動等を行い、体力向上に心がけてもらいたい。 ・伊丹市保健体育賞の表彰者は在籍530人に対して110人であり、且つ3年生が内65人を占めている。学年が上がるにつれ表彰者が増加していることは体育の授業等をおして取り組んでいることが成果となっていることの表れである。

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。 ・PTA活動と協力して取り組む。 ・信頼感の醸成を基盤とした家庭・地域と連携をすすめる。	・学校だよりの発行やホームページの更新を積極的に行う。 ・生徒会などを通じて、ボランティアを募集し、地域の行事などに積極的に参加する。 ・土曜オープンスクールには、校区内の小3～小6の児童や保護者にも来校を願う。また、学校補導連絡会開催時には、地域で健全育成に関わる方々の授業参観を行う。 ・教職員とPTA役員との顔の見えるよりよい関係づくり。 ・1、2年から進路に関する情報を適宜発信していく。 ・ホームページや学校だより、学年だよりなどの内容をより魅力的なものにすると共に、保護者に確実に渡すよう指導する。 ・地域の方に土曜学習や放課後学習などへの協力者登録を進める。	・情報発信を継続する。時々、ホームページにアクセスする家庭45%以上を目標にする。 ・地域と学校との間で双方向の活動が行われている状況を継続する。	A	・ホームページにアクセスした家庭は約42%となり、目標の45%を下回った。 ・ホームページは適宜更新している。 ・学校だよりや学年だよりなどの連絡文書も、約80%の家庭がよく読むと回答している。 ・約85%の家庭が家庭、学校、地域の連携が適切に行われていたと感じていた。 ・学校補導連絡会で授業公開を同時に行い、地域の方も授業見学している。 ・教職員が校内教育活動に専念できるようにと、親が我が子の行動に責任をもって子育てに励むPTAシャキット運動を粘り強く継続している。職員とPTA役員の協力体制は大変良好である。 ・朝読書において、ボランティアによる読み聞かせを行った。	・ホームページの仕様が、PC画面とスマートフォン画面で異なり、スマートフォンでは非常に見づらくなっている。仕様は市で統一されているのでスマートフォンでのホームページの操作方法を学校だよりで保護者に周知する。 ・情報を発信するプリント類などは内容をより魅力的なものにすると共に、保護者に確実に渡すよう指導する。 ・生徒会だけでなく、他の生徒も地域活動に意欲的に参加できるよう、ボランティア活動への参加をよびかける。 ・地域の方に土曜学習や放課後学習への協力者登録を進める。 ・オープンスクールを校区内の小学校3～6年の親子対象に小学校を通じて案内する。	・情報発信については非常に評価できる。各種たよりを保護者はよく読んでいる。 ・パソコンでホームページにアクセスする環境にある家庭はまだ少ないように感じる。スマートフォンの方がアクセスしやすいので簡単に操作できる方法を伝え、更新も頻繁に行ってほしい。 ・地域活動には非常に積極的に参加してくれている。
次年度に向けた重点的な改善点 ・本校は平成30年度からコミュニティスクールの指定を受ける。学校運営協議会立ち上げに向けた準備が早急に必要になる。学校、保護者、地域が連携と協働を図る上でも学校は学校が抱える課題とその解決のためのプランを持ち、強みを活かし、弱みを克服する学校経営を目指し、学校運営協議会のメンバーで共通理解を図っていく。 ・本年度の夏季校内研修会で、校区の小学校との合同研修会を試み、双方の課題や要望を共有する場となった。次年度も一堂に会した研修会を継続していく。								

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った